

## 慰霊式によせて

多摩動物公園では、開園来、多くの動物の誕生と死に面してきました。例年は9月の後半に来園者の方々もご参加いただき、動物慰霊祭を開催してきたところです。

2020年および2021年はCovid-19の感染拡大防止のため、職員のみで動物慰霊式を執り行いましたが、本年度についても、通常開園しているものの、引き続き職員や参列者間での感染防止などを考慮して、昨年と同様、休園日に職員のみで行うこととしました。

慰霊式にあたり、動物園で働く職員一同は、動物園を訪れ、動物の展示を楽しむにくださった方々の思いも含め、昨年9月から本年8月までに生を全うした動物に感謝の気持ちを表します。

これまで私たちは、野生動物の飼育管理にあたり、限られた資源の中で餌の選択から環境整備まで、飼育担当者や動物病院系の獣医師などが、日々努力や工夫しながら取り組んできました。また、動物が死んだ場合は、解剖などにより原因を可能な限り究明し、国内外の関係者との情報共有なども図って、飼育方法の改善などにつとめてきたところです。

近年、世界動物園水族館協会は、絶滅の危機に瀕する野生動物種の保全などを推進するにあたり、動物園で飼育する動物のアニマル・ウェルフェア（動物福祉）の向上を重要と位置づけ、さまざまな取り組みを進めています。日本動物園水族館協会でも動物福祉の向上に向けた取り組みをさらに推進することとしています。多摩動物公園としても、従来の取組にだけとどまるのではなく、よりよい飼育管理に向け、職員ひとり一人がひたむきな努力を続けていかなければなりません。

最後に、改めて動物園で最期を迎えた動物に厚く感謝するとともに、今後の野生動物の保全への取組の推進にむけ、さらに努力していくことを誓い、慰霊の辞とします。

令和4年9月21日 多摩動物公園長 渡部浩文